

た。時期的には、八世紀後半から一〇世紀初頭まで続くが、木簡は九世紀中頃のものと考えられる。

# 8 木簡の釈文・内容

(1) 〔御カ〕符 〔黒緒直〕

206×(72)×8 081

上下端は原形をとどめ、裏面は未調整である。上端は調整されているが、下端はキリ・オリのままである。内容は、〔御カ〕(官衙内の機構か)より、「〔黒緒〕(個人名)宛にだされた符の文書木簡である。内容は、下端右側に記された「直」字から、宿直を命令した木簡の可能性がある。なお、木簡の釈読及び内容については、新潟市歴史文化課(当時)の相沢央氏の「教示」によった。

# 9 関係文献

中条町教育委員会『船戸桜田遺跡四・五次 船戸川崎遺跡六次』

(二〇〇一年)

(水澤幸一)

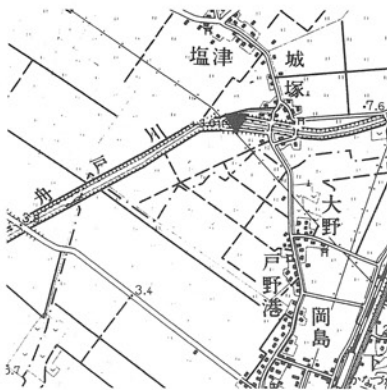


## 新潟・船戸川崎遺跡

ふなとかわさき

- 1 所在地 新潟県北蒲原郡中条町大字城塚じょうづか
- 2 調査期間 第六次調査 二〇〇一年(平13) 四月～五月
- 3 発掘機関 中条町教育委員会
- 4 調査担当者 吉村光彦
- 5 遺跡の種類 官衙関連遺跡
- 6 遺跡の年代 八世紀～一〇世紀初
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

船戸川崎遺跡は、塩津潟に流れ込む河口近くの遺跡である。これまでに、二次・四次調査で木簡が出土している(本誌第二号)。今



(中条)

回の調査区は、封緘木簡が出土した二次調査区の東側に隣接し、その木簡が出土した川跡の上流を検出した。水路幅3m分の調査のため、川跡以外は確認できなかったが、堰が認められた。遺物は須恵器・土師器・木製品などが多量に出土し、墨

書土器としては、六點の「中」須恵器・土師器、一点の「大」須恵器があった。木製品は一三點の盤、二點の椀をはじめ、斎串、曲物、籠、火鑽棒など多数に上った。时期的には八世紀後半から九世紀が主体であるが、一〇世紀に入る遺物も認められた。木簡一点が、九世紀後半の層位から出土した（木簡①）。

また、包含層から近世の木簡一点が出土した（木簡②）。

# 8 木簡の釈文・内容

## 川跡

- (1) ・ □マ直マ□□□□ママ〔直カ〕〔直カ〕  
 〔直カ〕  
 (190)×(19)×4 039

## 包含層

- (2) ・ 大野□  
 十メ□□  
 (89)×(31)×5 081

(1)は、上端をそぎ落とされており、下端の一方に切り込みがある。「直マ」を繰り返して書く習書木簡と考えられる。

なお、木簡の釈読及び内容については、新潟市歴史文化課（当時）の相沢央氏のご教示によった。

## 9 参考文献

中条町教育委員会『船戸桜田遺跡四・五次 船戸川崎遺跡六次』（二〇〇二年）

（水澤幸一）

